

第9章 4. 主権国家体制の形成 C.オランダの独立

- ①[1 **ネーデルラント**] 17州…ヨーロッパの商工業の中心、都市国家の連合体
 南部のフランドル地方=[2 **毛織物**]業の中心、北部=商業が発展
 現在の[3 **ベルギー**] 現在の[4 **オランダ**]
 北部や、南部の毛織物業者らに[5 **カルヴァン**]派プロテスタント(ゴイセン)が広がる
 ↓
 各国が領有権をめぐり対立→15世紀以来[6 **ハプスブルク**]家の領土→スペイン領に
- ②16世紀後半、スペインの[7 **フェリペ二世**]によるカトリック強制・重税賦課政策
 →反叛の高まり→1568 独立運動発生
- ③南部 10 州の屈服、北部7州=[8 **ユトレヒト**]同盟を結成
 →プロテスタント国[9 **イギリス**](王[10 **エリザベス1世**])の援助も受け抗争を続ける。
 ↓ ([11 **オランダ独立**]戦争)
 1581[12 **オラニエ公ウィレム**]を中心に[13 **ネーデルラント連邦共和国**]の独立を宣言→1609 独立達成
 (正式独立は 1648 年)
- ④ 1588 スペイン[14 **無敵艦隊**]を[15 **イギリス**]海軍が破る→スペイン、制海権を失う
- ⑤ 16 世紀後半～ 17 世紀前半 [16 **スペイン**](ポルトガル)と争いながらアジア貿易の覇権を握る
 首都[17 **アムステルダム**]が、南部(フランドル)の[18 **アントワープ**]にかわり世界商業の中心となる
アントウェルペン
 1602[19 **東インド**]会社設立→17 世紀前半アジア貿易を支配「17世紀前半はオランダの時代」

古くから各国の争奪の的となっていたネーデルラントは 15 世紀以降、スペインの支配下におかれていたが、[20 **カルヴァン**]派キリスト教が広がっていた。こうした中、スペイン王[21 **フェリペ二世**]がこの地にカトリックを強制し重税を課すと、この地の人々はオラニエ公ウィレムを指導者として独立戦争をおこし、1581 年には北部7州が独立を宣言、1609 年事実上の独立を達成した。
 この国はスペイン(ポルトガル)との戦争と並行し、争いながら[22 **アジア**]に進出、[23 **17**]世紀前半には世界貿易の中心となった。

d.フランスの宗教戦争と絶対主義

- ① 14 世紀以来 [24 **ヴァロワ**]朝のもとで王権の伸長、中央集権化すすむ
 百年戦争(14～15 世紀中期)、イタリア戦争(16 世紀前半)
- ② 16 世紀 都市商工業者や貴族の一部にカルヴァン派信者=[25 **ユグノー**]が増加
 ↓
 保守派貴族ら[26 **カトリック**]勢力との対立激化→1562[27 **ユグノー**]戦争勃発(～1598)
 1572 年 サン=バルテルミの虐殺発生→ユグノーの抵抗の激化、ヴァロワ朝の断絶
 →スペイン・オランダ・イギリスなど外国勢力の介入
 宗教問題よりも[28 **国内の統一**]を重視する考えの広がり(ボージダンら)
- ③[29 **アンリ4世**]即位([30 **ブルボン**]朝の成立)
 →カトリックへの改宗、1598 年、[31 **ナントの勅令**]を発布→ユグノー戦争の終結

ユグノー戦争…[32 **16**]世紀後半(1562～1598)フランスで発生した[33 **宗教**]内乱。ユグノーといわれる[34 **カルヴァン**]派の勢力が拡大するなかで、貴族同士の対立や王母カトリック=ド=メディシスの政策などがかかわって発生した。この過程で[35 **サンバルテルミ**]の虐殺といわれるユグノーの大量虐殺が発生した。こうした中、王位継承者は続々と死亡、ユグノーである[36 **アンリ4世**]が即位、カトリックに改宗するとともに 1598 年[37 **ナントの勅令**]を発布しこの戦争を終結させた。
ナントの勅令…[38 **1598**]年、フランス[39 **ブルボン**]朝のアンリ4世が発し[40 **ユグノー**]戦争を終結させた命令。限定的ながら[41 **ユグノー**]に[42 **信教の自由**]とほぼ完全な市民権をみとめる画期的な内容をもっており、フランス絶対主義の基礎を作った。

- ④17世紀前半 宰相[43 **リシュリユ**]の政治(国王[44 **ルイ13世**])
 ア)大貴族や反国王派ユグノーを抑圧→[45 **三部会**]を停止(～1789年)
 イ)ドイツ[46 **三十年**]戦争に[47 **プロテスタント**]側で介入→[48 **ハプスブルク**]家と対抗
- ⑥17世紀中期 宰相[49 **マザラン**]の政治(国王[50 **ルイ14世**])(1643～61)
 [51 **フロンド**]の乱を鎮圧=バ[52 **高等法院**]や貴族らの反乱(1648～53)
 →フランス王権の拡大=絶対主義化へ

宗教改革の動きの中、フランスでも[53 **ユグノー**]とよばれる[54 **カルヴァン**]派の新教が普及し、宗教対立が激化していた。そして 1562 年には[55 **ユグノー**]戦争が勃発、このなかで[56 **ヴァロワ**]朝は絶え、かわって[57 **ブルボン**]朝の[58 **アンリ4世**]が即位、1598 年[59 **ナント**]の勅令を発しこの戦争を終結させた。
 17 世紀前半の宰相[60 **リシュリユ**]は[61 **三部**]会を停止して貴族市民およびユグノーを抑えるとともに[62 **三十年**]戦争に新教側で参加し、ヨーロッパの強国としての地位を確立、17 世紀中期の宰相となった[63 **マザラン**]は[64 **フロンド**]の乱で貴族、市民の反抗を鎮圧し、フランス絶対主義を強化していった。

- ⑦17世紀後半～18世紀初期(1661～1715) [65 **ルイ16世**]の親政 絶対主義の典型
 (1)[66 **ヴェルサイユ**]宮殿の建設、フランス宮廷文化の全盛期
 [67 **バロック**]美術+古典主義

バロック美術…[68 **17**]世紀の[69 **スペイン**]やフランスで完成された[70 **豪華華麗**]な美術様式で君主の[71 **権力や権威**]を誇示するのに用いられた。もともとは「ゆがんだ真珠」の意味。フランスの[72 **ヴェルサイユ**]宮殿が代表的な例としてあげられる。絵画ではフランドル派の[73 **ルーベンス**]や、スペインの[74 **エル=グレコ**]や[75 **ルーベンス**]などが有名。(p202)

・悲劇作家[76 **ラシーヌ**]、[77 **コルネイユ**]、喜劇作家[78 **モリエール**]

古典主義…[79 **規則**]と[80 **調和**]を重視する。